

【知事臨時記者会見】 5月29日

今日の会見の目的は2つ。1つは、吉野ヶ里遺跡に関する興奮を県政記者の皆さんと共有すること。もう1つは、世紀の大発見に備え、記者の皆さんへの事前準備のため。分かりやすく説明するため、専門家2人にも補足説明してもらう。

昨年5月から、日吉神社(ひよしじんじゃ)跡地の約4,000m²の土地を発掘している。平成の初期、工業団地に造成中の土地から大量の甕棺墓(かめかんぼ)の出土とともに遺跡が発掘され、吉野ヶ里フィーバーが起こった。

当時、日吉神社は一番の高台にあり、甕棺墓の延長線上にあった。何かがあると思いつつ、神社の境内のため、未調査のまま30年以上の月日が流れた。その後、日吉神社のご協力で移設が完了し、神社跡地の発掘調査を始めた。

弥生時代は、3つの期に分類される。前期が紀元前5世紀頃まで、中期が紀元前2世紀頃まで、後期は紀元前後。ちなみに邪馬台国は、弥生時代の後期にあたる。3,000基あまり出土した甕棺墓の時代は、弥生時代前期の後半～後期の前半ごろ。

石棺墓(せっかんぼ)が出土した。石が完全に棺の形になっている。石棺墓は、邪馬台国の時代の可能性が高い。また、「×」や記号の線刻が、中央と右の2面にわたり全面に施されていた。これは、専門家によると、被葬者を封じ込める意味があるとのこと。何か大きな意味があるのではないか。

日吉神社境内の跡地は、見晴らしのいい丘陵頂部にあり、単独で埋葬され、未盗掘。ほかにも副葬品が出土する可能性が高い。また、墓坑の規模が3.2m×1.7mと非常に大きい。

吉野ヶ里遺跡の北墳丘墓には、弥生時代前期～中期の甕棺墓がある。平成12年には、当時の集落も発見された。つまり、集落、住居と墳丘墓の両方が発見されている。

吉野ヶ里遺跡のイメージは、物見櫓や竪穴住居や祭殿。これは、弥生時代後期のもの。集落はあるが墓がなく、長年の疑問だった。

この石棺墓は、かなり大物の墓だと推測できるため、副葬品への関心とともに期待が高い。しかし、何もない可能性もある。6月5日午前10時に石蓋を開ける。

大勢がわかるのは、約1週間後。2000年近く眠っていたものを1つずつ丁寧に開けていく。重大な発表になる可能性があるため、記者の皆さんと共有しておきたかった。